

令和 5 年 2 月 22 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 : 大阪市立西中島幼稚園
 校 園 長 名 : 横田 ゆかり
 電 話 : 6 3 0 1 - 4 7 7 2
 事務職員名 : 至田 直之
 申請者 校 園 名 : 大阪市立西中島幼稚園
 職 名 ・ 名 前 : 園 長 横 田 ゆ かり
 電 話 : 6 3 0 1 - 4 7 7 2

研究コース	
A グループ研究A	
校 園 コード (代 表 者 校 園 の 市 費 コード)	
645390	
選定番号	102

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 4 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	伸び伸びと自分を表現する子どもを育てるための指導のあり方を考える ~就学前教育カリキュラムを活用して~			
3	研究目的	○大阪市就学前教育カリキュラムを基に、幼児期の終わりまでに育ててほしいの姿の1つである「豊かな感性と表現」に視点をあてた学びの検証 ○遊びや活動の中で、幼児が心を動かし、感じたこと、思ったこと、考えたことを表現できる幼児の育成 ○絵本や物語などを通して、幼児が興味や関心を広げたり、自分を表現したりする保育内容の検討や教材研究 ○幼児の育ちに視点を当てた保育記録や研究協議による教員の指導力の向上 ○外部講師の指導助言を生かした取組の大阪市全体への発信			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSゴシック 9.5pt)</p> <p>年間を通して、就学前教育カリキュラムを活用した実践研究に取り組んだ。</p> <p>①就学前教育カリキュラムを活用した保育実践したことで、伸び伸びと自分を表現する子どもを育成した。</p> <p>②子どもの育ちや教育的意図をもった働きかけについて分析し、教員の資質向上につなげた。</p> <p>③保護者や地域へ保育実践について発信した。</p> <p>④大阪市の就学前施設や小学校に実践研究報告を行い、研究の成果を報告した。</p> <p>①②③④が達成できるように、下記の通り取り組んだ。</p> <p>(1) 年5回の実践検討会実施 子どもが伸び伸びと自分を表現する姿やその姿につながる事例を記録し、討議会を行った。子どもの姿から、その要因を教員が互いに意見交換し分析することで、子どもを多面的に捉え、子どもの理解を深めることができた。</p> <p>(2) 年5回の園内研究会実施 6月20日 研究保育・討議会 8月10日 研究討議会 10月31日 研究保育・討議会 11月29日 研究保育・討議会 12月20日 研究討議会 「子どもの育ち」「教育的意図をもった働きかけ」に視点を当て、研究保育や討議会を行ったことで、子ども育ちの見通しをもつことや、一人一人の子どもに応じた働きかけを工夫する大切さを学んだ。</p> <p>(3) 子どもが絵本や物語に親しめる保育内容や環境の工夫 ・絵本室を新たに作り、子どもの実態に応じた絵本の分類を行ったことで、絵本に興味や関心をもち、子どもが自ら絵本を選び、楽しむ姿が見られた。 ・各クラスで毎日、園全体では誕生会で毎回、子どもの興味や関心、時期に合った絵本の読み聞かせを行い、絵本に親しむ機会を多くもった。</p> <p>(4) 研究成果の報告 2月21日 大阪市内の就学前施設や小学校に、就学前教育カリキュラム実践研究の成果を報告した。実践研究報告会参加者向けのアンケートでは、「今後の実践に生かすことができる内容であった」の回答率が100パーセントであった。</p> <p>(5) 保護者や地域へ発信する。 月1回、子どもたちが遊んでいる様子の写真や指導者のコメント、知・徳・体に視点を当てた子どもの育ちについて掲載したものを掲示した。また、年3回、学校協議会で研究の取組について口頭で発信した。</p>			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和 5 年 2 月 21 日	参加者数	約 42 名
		場所	大阪市保育・幼児教育センター		
		備考			
6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 幼児が「やってみないな！面白いな！こうしてみよう！」と心を動かし、自分を表現しながら活動するようになる。</p> <p>《検証方法》 保護者アンケートの「子どもは、意欲的に身近な環境に関わり、自分なりに表現することを楽しんで感じますか」の項目で、肯定的な回答の割合を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 保護者アンケートの「子どもは、意欲的に身近な環境に関わり、自分なりに表現することを楽しんで感じますか」の項目で、肯定的な回答の割合は94%であったため、概ね目標が達成できたと思われる。1学期は、感触を楽しめる遊び、2学期以降は、目的をもって意欲的に取り組める運動遊びや人との関わりを楽しめるごっこ遊びなどの環境を整えたことで、子どもは、興味や関心を持ち、自分を表現しながら活動する姿が見られるようになった。</p>			
		<p>【見込まれる成果2】 幼児が絵本や物語に親しみ、興味や関心をもって、見たり聞いたりすることを楽しむようになる。</p> <p>《検証方法》 保護者アンケートの「子どもは、絵本や物語に親しみを持ち、見たり聞いたりすることを楽しんで感じますか」の項目で、肯定的な回答の割合を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 保護者アンケートの「子どもは、絵本や物語に親しみを持ち、見たり聞いたりすることを楽しんで感じますか」の項目で、肯定的な回答の割合は96%であったため、概ね目標が達成できたと思われる。 園内環境を見直し、新たに絵本室をつくった。季節や時期に応じて絵本を分類して置いたことで、子どもは絵本に興味や関心を持ち、自ら選んで楽しむ姿が見られた。</p>			
		<p>【見込まれる成果3】 教師が、実践記録をとり、検討することで、環境や教育的意図をもった働きかけを工夫できる。</p> <p>《検証方法》 保護者アンケートの「幼稚園は、子どもの興味や関心を高めるような指導を行っていると感じますか」の項目で、肯定的な回答の割合を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 保護者アンケートの「幼稚園は、子どもの興味や関心を高めるような指導を行っていると感じますか」の項目で、肯定的な回答の割合は98%であったため、概ね目標が達成できたと思われる。年5回の実践記録をとり討議会を行った。討議会では、子どもの実態や環境、働きかけに視点を当て、意見交換をした。その結果、子どもの興味や関心に沿った環境や、一人一人の応じた働きかけの工夫につながった。</p>			

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】 外部講師からの指導を受け、教員の指導力の向上につながる。また、本研究の報告を聞いた研究会参加者が、実践の大切さを知る。</p> <p>《検証方法》 教員への聞き取りで、就学前教育カリキュラムの活用によって保育が充実し、指導力の向上につながったと成果を感じたと答える割合を90%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 教員への聞き取りで、就学前教育カリキュラムの活用によって保育が充実し、指導力の向上につながったと成果を感じたと答える割合は100%であったため、達成できたと考える。年5回の園内研究会・討議会を行った。外部講師の指導を受けたことで、子どもの育ちの見通しをもち、子ども一人ひとりに応じた働きかけをすることを深く学び、保育実践につなげ、教職員の資質向上につながった。</p>
		<p>【見込まれる成果5】</p> <p>《検証方法》</p> <p>〔検証結果と考察〕</p>
		<p>【研究全体を通じた成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>【成果】 ・教職員間で話し合う機会を多くもったことで、子どもを多面的に捉え、深く理解でき、教職員の資質向上につながった。 ・就学前教育カリキュラムを活用したことで、子どもの育ちを見通し、ねらいを明確にもち、一人ひとりに応じた働きかけの大切さを学び、実践につなげることができた。 ・子ども一人ひとりのありのままの姿を受け止め、夢中になって遊ぶ経験を積み重ねるようにすることで、子どもは伸び伸びと自分を表現することが分かった。</p> <p>【課題】 ・子どものありのままの姿の捉え方を教職員間で共通理解する。 ・子どもをありのままの姿の捉え方を保護者に分かりやすく伝える工夫をする。</p>
		<p>《代表校園長の総評》 本園の子どもの実態から課題を明確にし、研究テーマを設定した。研究を進める中で、子どもの育ちや教育的意図をもった働きかけについて、教職員で話し合いを重ねて分析し、分かったことを実践につなげていくことができた。その結果、教職員は、子どもの実態、子どもの育ちを読み取る、子どもの育ちの見通しをもち、子ども一人一人に応じた働きかけを行うなど、様々な力が向上したと考える。また、教職員間で話し合う機会を多くもったことで、教職員間の連携も深まった。そして、子どもは、伸び伸びと自分を表現する姿が多く見られるようになり、保護者からも、子どもが伸び伸びと自分を表現するようになったと感じるという声も聞かれ、研究の成果があったと考える。今後も研究の成果と課題を踏まえ、教育活動の充実に努めていきたい。</p>